

西中だより



令和5年9月号

大泉町立西中学校

順調に2学期がスタートしました!



長い夏休みも無事に終了し、2学期が順調にスタートを切りました。39日間もあった休みの間、誰一人として事件・事故に遭うこともなく、また、部活動中の熱中症や大病を患う生徒もなく、無事に2学期を迎えられたことに大変安堵しています。

これから始まる2学期は、多くの学校行事が控えています。来週からは、1年生が2泊3日の「赤城林間学校」へ出発し、2年生は3日間の「職場体験学習」がスタートします。

そして、9月30日(土)は「体育祭」です。体育祭が終了すれば、11月の「合唱コンクール」に向けて、クラス一丸となって練習がスタートするでしょう。その合唱コンクールが終了すれば、期末テストを迎え、あっという間に12月です。

そうした中で、3年生は、自分自身でタイムスケジュールをしっかりと作り、1月から始まる私学の入試に備えてください。

1, 2年生にとっては、3年生が大活躍した部活動を引き継ぎました。いよいよ、今週末から新人戦が始まります。夏休み中に頑張ってきた成果を存分に発揮し、一人でも多くの選手が、県大会に出場できることを目指しています。



よい歯のコンクール学校代表

新井 譲士くん(3年生) 徳永侑子さん(3年生)

これからも、きれいな歯を大切にしてください。



邑楽郡英語スピーチコンテスト学校代表

アンドラデ ライスさん(3年生) 野澤 恵さん(3年生)

大泉町英語力実践発表会(9/21)にも出場します。頑張ってください!

新しい先生の紹介

これまで、お子さんの育児休業でお休みをしていた先生が復帰しました。

坂井 忍 教諭 (7組担任)

これまで7組を担当していた先生が、2学期から1学年の副担任となり、全学年の家庭科、日本語学級の授業などを担当します。

渡邊美智子 教諭 (1学年副担任)

宜しくお願いします。

邑楽郡新人大会のご案内

種 目	会 場	期 日	対 戦 校
バスケットボール男子	邑楽中学校	9/16(土) 17(日)	野:明和中 13:00~
バスケットボール女子	//	//	好:千代田中 9:00~
バレーボール男子	KAKINUMA プリナ	9/16(土) 17(日)	野:大北中10:05~板倉中11:05~
バレーボール女子	(千代田町民体育館)	//	好:千代田中9:05~
ソフトテニス	大泉町南公園	9/9(土) 16(土)	個人戦9日 8:20~、団体戦16日 8:20~
卓球男子(※)	邑楽町民体育館	9/9(土)	午前:団体(リーグ戦)
卓球女子(※)	//	//	午後:個人戦
サッカー	千代田東部運動公園	9/16(土) 17(日) 23(土)	邑楽中9:00~、板倉中13:00~
陸上競技	太田市陸上競技場	9/23(土)	競技開始9:00~
柔道	邑楽町武道館	9/16(土)	試合開始9:40~ 団体戦(明和中・邑楽中)
剣道	邑楽中学校	9/10(日)	団体戦8:40~(北中) 団体終了後個人戦

◆邑楽郡駅伝大会 (館林市城沼陸上競技場周辺コース)

10月6日(金) 女子2.4km×5区間 9:00~スタート

男子 3km×6区間 10:10~スタート

※卓球は会場が狭いため、選手1名につき保護者1名の入場にご協力ください。

全国学力学習状況調査の結果について

令和5年度全国学力学習状況調査が4月に実施され、その結果が夏休み中に公表されました。調査対象者は3年生で、今年は、国語、数学、英語の3教科で実施されました。

本校の結果を全国の平均正答率と比較した場合、今年度は、3教科ともに若干下回る結果となっております。これは、上位層における大きな差は見られませんが、正答率の低い層が全国の割合よりも多くなっており、全体として正答率に影響を与えた結果と考えられます。こうした点を踏まえ、本校の課題が見えておりますので、今後も改善に努めていきたいと考えます。また、以下に3教科の主な課題についてまとめます。

- ・「15問中、正答数3問以内」の生徒が、国語では9%(全国4.5%)、数学では22%(全国17%)を占め、全国と比較して上位層と下位層の二極化が進んでいる。
- ・英語においては、「17問中、正答数4~5問」が30.2%(全国19.1%)となっており、国語・数学と同様の傾向が見られます。
- ・苦手な傾向にある問題は、国語の「自分の考えを目的や根拠を明確にしてまとめる・説明する問題」であり、無回答の生徒が3割近くを占めてしまっている。
- ・数学では、「解答を導いた理由や方法を説明する問題」や「証明する問題」などについては、無回答の割合が高く、苦手意識が強い傾向にある。
- ・英語においては、「自分の意見や考えを英文で表現する(書く)問題」の正答率が極めて低い傾向にある。

これらの点から、3教科に共通して、自分の考えを「まとめる力」や「表現する力」、「説明する力」やその土台となる基礎的な知識・技能・表現力の定着が挙げられます。

そうした学力を定着させるためにも、より一層、生徒の興味関心を高め、進んで学習に取り組める授業づくりを目指していきたいと考えます。

1学期に開催された「大泉町少年の主張大会」 西中代表生徒の紹介

自分を知って世界をよりよく

3年 小沢 紗希さん

「好きな食べ物はなんですか」「嫌いな食べ物はありますか」「また、一回の食事でどのくらいの量を食べることができますか」

みなさんは今、これらの質問に対してすぐに答えが浮かびましたか。

少し前までの私がこのような質問をされたら、悩んでいたと思います。なぜなら、「食べる」ということに関して真剣に考えたことがなかったからです。ですが、今なら、すぐに答えが浮かびます。私がこのことにこだわる理由は、今話題の大きな社会問題にあります。「フードロス」です。

誰もが食べ残しや期限切れなどで食べ物を捨ててしまったという経験を持っているのではないのでしょうか。本来は食べることができたはずの食品が廃棄されてしまう「フードロス」は、食品が生産されてから消費されるまでの様々な過程で原因が発生します。近頃では、「SDGs」「持続可能な社会への目標」の達成に向けた活動の一つにもなり、フードロスを減らすという取り組みが世界中で行われています。

では、フードロスはなぜ減らしていかなければならないのでしょうか。

食品を運ぶためにはたくさんの水や資源が使われています。したがって、私たちが食品を捨てるということは、これらの多くの水や資源を無駄にしているのと同じことです。さらに、注目すべきなのは、その処分方法です。食品を焼却処分するには大量に二酸化炭素が排出されます。二酸化炭素は地球温暖化を加速させるため、減らしていかなければならないことはみなさんもよく知っていると思います。つまり、ただ食品がもったいないというわけではなく、食品を廃棄することにかかる環境負荷もあるため、フードロスは問題視されているのです。

私はこのフードロスの原因となるものの大半は、食べ残しや作り過ぎなどだと考えました。私たちが作ったり買ったりしている料理の量と、実際に消費する量がかけはなれていたら、無駄は大きくなるばかりです。そのため、社会全体で考えた時の需要と供給のバランスの悪さを、見直す必要があります。しかし、それはあまりに大きな改善策です。私たち一人ひとりにできることはなんなのでしょうか。

みなさんも、「大好きだからたくさん作っておこう」「体に良いから我慢して食べてみよう」といったような軽い気持ちで料理を準備し始めて、結局残してしまったという経験はありませんか。または、ひどい空腹のときに必要以上の買い物をしていませんか。

そこで私は去年から、食事を作ったり買ったりする前に、自分が一日に食べたものや量を振り返るようにしました。その上で食事を準備すると、少しすくないかな、と思う量でも、食べてみると十分であることもわかり、この一年間、普段の生活で無理をせずに完食できるようになりました。また、廃棄の基準となる賞味期限や消費期限についても考えました。その日に食べ切れる分を適切に選んで買うようにすると、消費期限などを気にする必要はなくなるということにも気が付きました。そのため、スーパーで買い物をする際には、冷蔵庫の中を確認すること、手前から商品を取ることを、値引きされているものを積極的に買ったりすることを家族で決めて取り組んでいます。

知らぬ間に私達の生活の一部になっている「フードロス」。だからこそ、ひとりひとりが問題意識をもつ必要があると感じます。食べること、残さないこと、捨てないこと、それら全ては、自分自身の判断で変えられることです。世界中の人が、少し意識を変えることが、フードロス削減への第一歩だと私は考えます。ぜひみなさんも生活の中で取り組んでいきましょう。

国籍の壁を超えた新たな未来へ

3年 ヤマト ラッファエラさん

「これだから外国人は」この言葉を何度耳にしてきただろう。差別意識にあふれたこの一言を。

ここで皆さんに一つ、問いたいことがある。それは、「差別にあふれたこの世界を差別をなくさぬまま平和に出来るだろうか」ということである。私は自信を持ってこう言い切れる。そんなことは絶対にありえない、と。

人種差別。それは、人間を外観的特徴や民族、国籍などに基づいて区分し、その特定の人々に対して差別をすること。つまり、肌の色や目の色などでその人の人柄を判断し、決めつけ、差別するということだ。

私は、幼い頃から外国人だからという理由で日本人と違う扱いを受けてきた。それがすごく嫌で仕方がなかった。「どうせ外国人なんだから」とクラスメートに馬鹿にされ、見た目や家族のことで面白おかしく言われ、あらぬことを噂されたりもした。そして私の「ラファエラ」という名前を笑われたりもした。

そんな経験のせいで私は、自分の中に流れる血、国籍、名前、その全てが大嫌いだった。どれだけ親を恨んだだろう。「どうして私に日本人らしい名前をつけてくれなかったの」「どうして私にはブラジル人の血が流れているの」と、何度も何度も親に訴えた。心から日本人になりたいと願った。こんな日々が続くのかと考えて、憂鬱な毎日だった。様々な「憎しみ」の思いが、私の中で芽生え始めようとしていた。

だがある時、そんな私を変える出来事があった。そのままの私を受け入れてくれる友に出会ったのだ。その友達は苦しむ私に「人と比べないで、自分は自分だよ」と言ってくれた。そして、「ラファはラファの良さがある。私の大切な友達だよ」と。それまでの苦しかった気持ちを、優しく包んでくれる言葉だった。

それからの私はだんだんと自分に流れる血、国籍、名前を好きになれるようになった。そして、全ては私だけのもの、親がくれた大切な私だけの宝物なんだと、そう思えるようになった。私は自分自身を愛せるようになったのだ。

そして、私は自分の考えに固執していることに気がついた。なぜ外国人を差別してしまうのか、という「周りの人たちの立場」を考えてみようという気持ちを持つようにもなった。もしかしたら、いやな思いや、怖い思いをした事があるのかもしれない。マナーが悪い人が、身近にいたのかもしれない。そう考えていく中で、わかり合うことの大切さを、より一層感じるようになった。人にはそれぞれ自分の生活があり、家族があり、習慣や考え方の違いがある。だからこそ、互いに理解しようとする姿勢が重要になるのだ。

たった一人の友のおかげで、これほど私は多くの事に気がつくことができた。自分に自信を持てるようになり、次第に心にも余裕ができた。常に強い心を保つことが出来るようになった。今、辛い思いをしている人たちのそばに一人でも隣で寄り添ってくれる私の友達のような人がいてほしいと願ってやまない。

世界から完全に差別をなくすことは、きっとすごく難しく、莫大な時間がかかるだろう。でも、一人でも理解者がいれば、それだけ救われる人も大勢いることは間違いない。人種の違いに対する考え方を「違うからだめ」ではなく「違うから理解しよう」という考え方にすれば少しずつであっても確実に減らせるだろう。

外国人にも、親切な人、心優しい人がいて、全員が怖い人、悪い人ではないということ、きちんと理解してほしい。そして、私達のことをよく知ってからもう一度、接し方を考えてみてほしい。誰かを知らぬ間に傷つけてしまう前に。

私はこれからも、私自身の辛かった経験を生かして、私と同じように苦しんでいる人に、温かい言葉をかけていきたい。

今日もまた一歩踏み出していく。「国籍の壁を超えた新たな未来へ」